

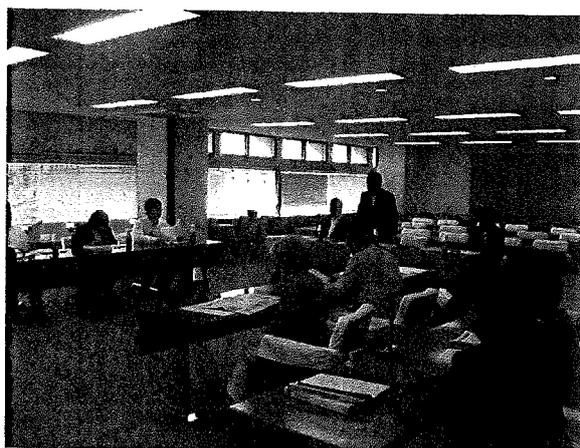
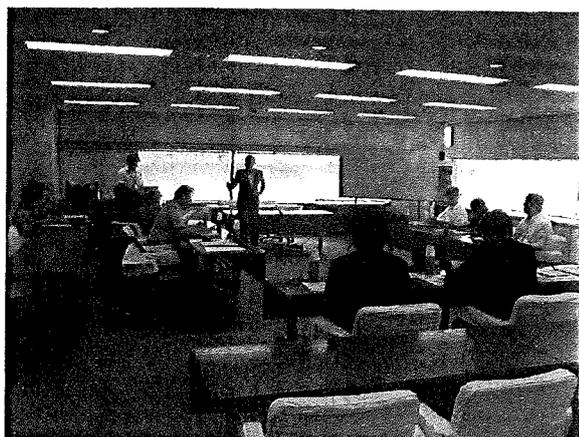
総務安全委員会行政視察報告書

委員名： 愛敬 重之

■ 東京都武蔵野市

視察日時：平成27年7月8日（水） 午後1時30分 ～

【視察事項：地域コミュニティ事業について】



□武蔵野市をめぐる3つの数字から説明がありました。

- 15%：転出入の方の割合
- 50%：単身世帯の方の割合
- 70%：集合住宅の方の割合

1. 公民館等が無く、コミュニティセンターを中心に活動している武蔵野市

コミュニティセンターとは

- ・公設民営の多目的・多世代交流施設
 - ・コミュニティづくりの拠点として設置
 - ・建設段階の用地取得・設計から完成後の管理運営までを一貫して市民（地域住民）参加により行う。（19館すべての施設が延床面積や設備等が違っているのが特徴）
- さらにセンターの管理運営も地域住民で組織する公共的団体に委ねるというコミュニティづくりの取り組みが行われている。
- 平成17年度から指定管理者制度を導入していました。

2. 武蔵野市のコミュニティ構想

- ・昭和46年2月に武蔵野市第一期長期計画を策定したが、この基本構想のひとつとして「コミュニティ構想」が策定。
- ・昭和56年に策定された武蔵野第二期長期計画で、「住民による『自主参加・自主企画・自主運営』をコミュニティの基本原則とすること」（自主3原則）を確立し、平成14年4月施行の「武蔵野市コミュニティ条例」が明文化した。

3. 武蔵野市のコミュニティづくりの特徴

- ・ボランティア市民（コミュニティ協議会）が（自主参加・自主企画・自主運営＝自主3原則）に基づいて運営し、行政は協議会の要望に基づいて活動費やセンターの管理運営費を出す「公設民営」方式。
- ・センターを拠点として地域の絆やネットワーク、地域課題を解決する力を育成すること

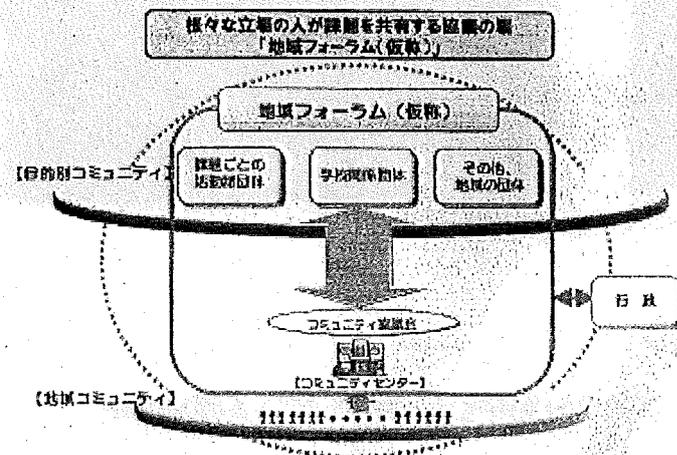
を通じて「市民の手によるコミュニティづくりの推進が大きな特徴。

- ・この協議会は、コミュニティづくりのための補助金を市から交付されながらも、「自主3原則」によって行政の支配を受けない自由なコミュニティづくりの活動が保証されている。
- ・つまり、「市民が主体」で「行政は支援」という形でのパートナーシップによるコミュニティづくりの推進が大きな特徴。

4. コミュニティ研究連絡会による相互連絡と質の向上

- ・昭和53年(1978年)に各コミュニティ協議会間の連絡組織として「コミュニティ研究連絡会」が設立された。研究連絡会には、市内の全16のコミュニティ協議会の代表が参加し、毎月定例会を開催している。目的は、コミュニティに関する調査・研究ならびに協議会相互の連絡を行い、コミュニティづくりやセンターの管理運営に関する問題点などを協議することによって、相互に研鑽し、市民自治の実践に役立てることである。
- ・さらに、コミュニティ研究連絡会の専門部会として、現在、「コミュニティのあり方懇談会」と「広報部会」の2部会が設置されている。(平成27年度は共に休会)

【「これからのコミュニティ」のイメージ】



注) 図中の組織について

- 課題ごとの協働団体 : 防災活動団体、福祉活動団体、老人クラブ、NPOなど
- 学校関係団体 : 学校、幼稚園・保育園、PTA、青少年など
- その他、地域の団体 : 企業、商店会、町内会、自治会など

「これからのコミュニティ」の核として

- 「地域フォーラム」⇒これからの地域コミュニティの基盤
- ※多様なやり方で「地域フォーラム」へ向けた足がかりをつかんでいく。
- ※市民活動推進課職員が提案や相談に応じていく。

【事例】

- ・吉西C : 地域懇談会⇒「美化活動」
- ・吉南C : 円卓会議⇒「地域医療」
- ・はちC : 千川防災会⇒「地域防災」
- 今後の展開に向けて
- ・市民が気軽に集えるコミセンづくりを(サロン機能の充実・施設予約の仕組み)
- ・多世代からの参加による担い手の確保を(積極的な広報・人材の掘り起し)

保を(積極的な広報・人材の掘り起し)

- コミセンからコミュニティの窓口へ(地域情報の発信・地域活動の拠点)

【まとめ】

確かに武蔵野市ではコミュニティセンターを地域ごとに配置し(市民の話し合いで達成)しており地域の自主3原則に伴いすばらしいチームワークが達成できていると思いました。評価委員会でも活動の評価をされておりサイクルとしてもうまく回っていると思いました。

しかし課題も多くあり担い手不足やセンターの使いやすさや広報活動の仕方もあがっておりこの点を改善すれば更に良い市になるのではないかと思います。

桑名市にも自治会活動があり自治会ニュースや情報交換の電子化等もう少し工夫をするだけで非常に良い団体にできるのではないかと考えました。これからは地域包括ケアシステムでもある地域での支え合い活動が重要となってくるので、小回りができる地域活動が必要となると感じました。よって桑名の自治会活動は「拡充」「改善・効率化し継続」と2点が考えられる事業かと思えます。

以上